

Q 道の駅来場者に町の魅力をアピールするべきでは

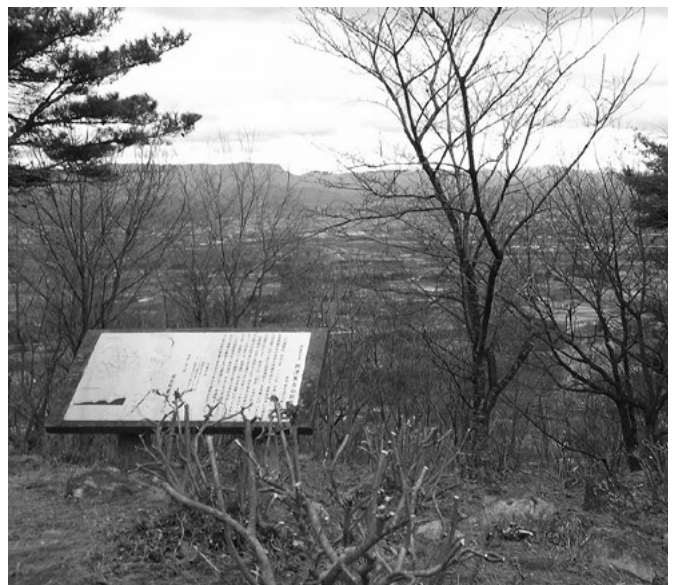
A 費用対効果を念頭に置き対応する



松浦和子議員

者の動きも見ながら選択していく。直売もレストランも、動きが見えるまで3年かかるといふ。費用対効果を念頭に置き、取捨選択しながら対応していく。

問 阿津賀志山山頂について、以前有識者の意見として眺望以外楽しめるものがない、観光スポットだけでは人は来ないと指摘されたとのことだった。その後、有識者の方から魅力ある観光スポットとしてどうすべきか提言はあったのか。



阿津賀志山山頂の美しい眺望を生かしたい

問 観光の拠点となるべき道の駅に国見町を紹介する案内板がない。施設2階のあつかしテラスに阿津賀志山の歴史などを紹介するプレートを設置するなど、来場者に国見の魅力をアピールするチャンスと捉え、

できることから実行すべきではないか。

町長 道の駅国見あつかしの郷は、

8月28日で来場者が80万人となった。道の駅からの情報発信は重要な課題であると強く認識している。ビデオ上映、リーフレットでのPRなどを実施しているが、発信の手法で一番効果的なのは何か定まっておらず、来場



訪れる多くの人に町の魅力を知ってほしい(道の駅オープン時のようす)

まちづくり交流課長

平成25年の「1000

0年のまち。これから

1000年のまちづくり基本計画」をはじめとした計画策定に有識者からいただいた意見、提言はおおむね次の5点である。

①国見にしかない地域資源

②体験型のサービス

③地域が儲かるビジネスモデルの構築

④伝えたくなる感動や意外性により話題性を高める

⑤交流連携で持続的戦略が取れる地域のプロデューサーの育成
提言をいただき先進地視察などをしたが、結果として同様の考え方が示された。国見に合ったオリジナルの取り組み、観光づくりが

大切であり、課題である。

Q 農業ビジネス訓練所研修生の定住化に向けた取り組みは

A 国や地域と連携し定住でき得るシステムを作る

問 農業ビジネス訓練所の目的は。また、多品目栽培にこだわる理由は。

産業振興課長 町の基幹産業である農業の担い手の育成と主要農作物の水稲、果樹に次ぐ野菜の多品目栽培による園芸作物の振興を図り、稼げる農

業ビジネスモデルを構築する目的である。生産技術、栽培技術を上させ、多品目栽培で年間を通して生産出荷をしていきたいと考えている。

問 今までの農業は立派な品物を作って共選所へ運ぶだ

けだった。農業をビジネスとして捉えることはすばらしいが、農業のビジネスモデルとして構築できるのか。

産業振興課長 園芸作物の振興を図るのみでなく、農業の担い手育成も目的達成の1つの手段として掲げている。担い手の育成、野菜の多品目栽培体系の確立、販売ルート

の確保がすべて整ったのビジネスモデルと考えている。目的が少しでも早く達成できるように努めたい。

問 訓練所は平成30年度の運営予定だが、ハード事業での整備の進捗状況は。

産業振興課長 施設用地は、約5300平方メートルについてまもなく契約を締結する。建物は、実施設計業務を委託しており、その後に建築工事を発注する。その他、ミニトマトなどの溶液栽培を計画している鉄骨ハウス建設で発注の準備を進めている。

問 新規就農者が農業訓練所を修了したからといって経営を順調に進めるのは容易ではない。長期的な支援は考えているか。

産業振興課長 国・県・町の補助事業の活用が考えられる。新規就農時45歳未満の経営者であれば、経営開始型の青年就農給付金として年間150万円が最長5年間交付される事業もある。認定新規就農者となれば、無利子の青年就農資金を3700万円まで借り入れができる。農業機械の導入にも補助事業があるので、それらを組み合わせた支援を想定している。

問 新規就農者の定住化に向けた、農地の取得や住宅の賃貸などの町の取り組みについて伺う。

町長 ビジネス訓練所研修生の定住化を図ることは、町政振興の上で非常に重要な課題である。農業委員や農地利用最適化推進委員とも連携を図って対応したい。

未利用地については、町内会長などと連携しながら町として

も農地取得に向けた支援をしていく。住宅の確保については、町営住宅も資格があれば入居可能であり、民間の住宅の情報も提供なども考えている。また、空き家改修でシェアハウスなどにチャレンジすることも視野に入れて対応していきたい。何より地域との連携が必要である。地方創生事業のため、国と連携を図りながら町としても定住でき得るシステムづくりをしていきたい。



阿部泰藏議員

国見の農作物は各地でとても好評（トップセールスのようす）



国見の農作物は各地でとても好評（トップセールスのようす）